

平成24年産水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）

—西南暖地における早期栽培等の作柄は、「平年並み」ないし「やや不良」の見込み—

【調査結果の概要】

高知県、宮崎県及び鹿児島県における早期栽培の作柄は、3月下旬から4月上旬の低温等や5月下旬以降の日照不足の影響により「平年並み」ないし「やや不良」が見込まれる。

沖縄県の第一期稲の作柄は、全般的には生育・登熟がおおむね順調であったものの、一部地域で田植え後の少雨により収穫皆無となる被害が発生したことから、「やや不良」が見込まれる。

表 平成24年産水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）

区分	平年比較					田植期				出穂期				出穂済面積割合 %		
	作柄の良否	穂数の多少	一穂当たりもみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期		最盛期の比較	
									対平年	対前年					対平年	対前年
高知	やや不良	少ない	平年並み	少ない	やや良	4. 5	4. 12	4. 22	1	0	6. 29	7. 8	…	0	1	90
宮崎	やや不良	やや少ない	やや少ない	少ない	やや良	3. 23	3. 27	4. 7	0	△ 1	6. 23	6. 27	7. 3	△ 1	△ 1	100
鹿児島	平年並み	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み	3. 27	4. 4	4. 15	0	△ 2	6. 23	6. 29	7. 10	△ 1	△ 2	97
沖縄	やや不良	平年並み	平年並み	平年並み	やや良	2. 20	3. 9	3. 26	5	1	5. 9	5. 27	6. 10	6	△ 3	100

注：1 本表で用いた「作柄の良否」の表示区分は、「平年並み」が作況指数99～101、「やや不良」が95～98に相当する。

2 「最盛期の比較」欄の「△」は、平年（前年）より早いことを示している。

また、「対平年」は前5か年の平均値との比較である。

3 出穂期「終期」の欄の「…」は、7月15日現在でその期日に達していないためである。

4 全国の水稲作付面積に占める本表の4県における早期栽培等の割合は、平成23年産で1.4%となっている。

○ 西南暖地における早期栽培等とは、南四国及び南九州の地域で主に台風による被害を避けるため8月中旬頃までに収穫する栽培方法並びに沖縄県における二期作の第一期稲である。

この統計調査結果の統計表は、政府統計の総合窓口(e-Stat)の「統計データ新着情報」で御覧いただけます。
【 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do> 】

◎ 水稻調査結果の利活用

- ・ 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」に基づき毎年定めることとされている「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の確認のための資料
- ・ 「農業災害補償法」に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

1 西南暖地における早期栽培等の収穫量の推移

区 分	平成18年産			19			20		
	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合
	t	t	%	t	t	%	t	t	%
高 知	59,600	36,900	62	62,100	37,400	60	67,000	40,900	61
宮 崎	100,000	44,100	44	78,100	18,800	24	104,200	44,400	43
鹿 児 島	111,400	27,600	25	115,600	18,700	16	122,500	27,800	23
沖 縄	3,030	2,450	81	2,880	2,470	86	3,160	2,620	83

区 分	21			22			23		
	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合
	t	t	%	t	t	%	t	t	%
高 知	63,500	39,400	62	58,700	36,000	61	59,200	35,200	59
宮 崎	103,800	45,300	44	99,700	41,100	41	92,900	36,500	39
鹿 児 島	122,000	27,000	22	118,800	25,300	21	117,600	23,700	20
沖 縄	2,890	2,380	82	2,680	2,220	83	2,540	1,830	72

2 西南暖地における早期栽培等の10a当たり収量の推移

区 分	平成18年産	19	20	21	22	23
	kg	kg	kg	kg	kg	kg
高 知	446	456	509	491	468	466
宮 崎	472	205	505	517	479	462
鹿 児 島	435	298	467	466	430	428
沖 縄	363	356	382	351	375	297

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稻調査の中の作柄概況調査として実施し、水稻の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

西南暖地における早期栽培等の調査対象県は、8月中旬頃までに刈取りがおおむね終了する早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める南四国の徳島県、高知県、南九州の宮崎県、鹿児島県及び二期作のうちの第一期稲の沖縄県としている。

なお、徳島県については7月15日現在の出穂済み面積割合が低く、穂数、もみ数等の作柄を判断する項目の調査が終了していないことから、表記していない。

3 調査対象数

作況標本筆調査:304筆 作況基準筆調査:41筆 巡回・見積り:168市町村

4 調査事項

は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期間

7月15日現在で水稻の生育・作柄概況を調査した。

6 調査方法

調査は、作況標本筆、作況基準筆に対する職員による実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

7 集計方法

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して算出している。

8 用語の解説

- (1) 「穂数の多少」は、1㎡当りに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (2) 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。

- (5) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較である。
- (6) 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。
- (7) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率である。
- (8) 10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

9 利用上の注意

本調査（7月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

○各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」に分類しています。

【関連リンク】

農林水産施策関係ページ：農林水産省＞組織・政策＞大臣官房の部局別トップへ

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織・政策＞生産局の部局別トップへ

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

お問合せ先

- ◎本統計調査結果について
農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 普通作物統計班
電話：(代表) 03-3502-8111 内線3682
(直通) 03-3502-5687
FAX： 03-5511-8771
- ◎農林水産統計全般について
農林水産省 大臣官房統計部
統計企画管理官 広報普及班
電話：(代表) 03-3502-8111 内線3589
(直通) 03-6744-2037
FAX： 03-3501-9644